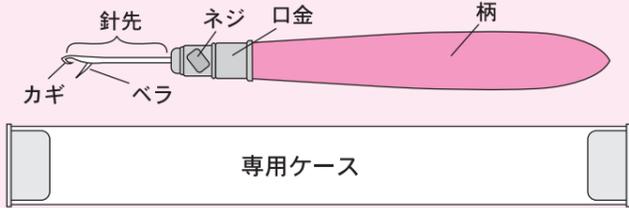


# ビーズクチュール

内容 ・ビーズクチュールニードル本体  
・専用ケース

## ビーズクチュールニードル



## <準備>

### はじめる前に用意するもの

- 【**枠**】クローバー「ターンフープ(18cm)」もしくは、両手が自由に使えるスタンド式の刺しゅう枠。
- 【**糸**】ミシン糸など(右記 **上手に使うヒント** を参照)。
- 【**生地**】最初はオーガージーなど透ける素材で練習することをおすすめします。「ターンフープ(18cm)」に張ることができるのは25×25cm以上のサイズです。
- 【**ビーズやスパンコール**】糸に通ればどのようなビーズでも使用できます。あらかじめ糸に通しておきます。
- 【**糸にビーズを通す用具**】ビーズを通る太さの針または、クローバー「フリーステッチングスレダー」。
- 【**図案を写す用具**】クローバー「水性チャコペン」または、「クローバーチャコピー」、トレーサー、セロファン紙、待針、トレーシングペーパー。
- 【**その他**】糸切はさみ、糸立て。

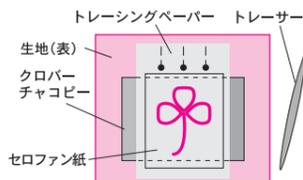
### 図案を写します

●オーガージーなどの透ける素材には・・

●透けていない素材には・・

- ① 実物大の図案をトレーシングペーパーに写します。
- ② 生地の表に図を写したトレーシングペーパーをのせ、待針で止めます。
- ③ 「クローバーチャコピー片面」を転写面を下にして生地とトレーシングペーパーの間にはさみます。
- ④ 上にセロファン紙を重ね、クローバー「トレーサー」で図案を写します。

●あると便利な道具●  
クローバー「水性チャコペン」



●あると便利な道具●  
「クローバーチャコピー片面」  
「トレーサー」(手芸用鉄筆)  
トレーシングペーパー  
セロファン紙  
待針

### 枠に生地を張ります

クローバー「ターンフープ(18cm)」



生地の張りが弱いとステッチがきれいに刺せません。ピンとしっかり張ります。

### 針先のセット方法



ネジをゆるめて、口金の奥まで針先を入れ、ネジを締めます。  
※針先の平らな面をネジの方向に向けて下さい。

針先にベラを押し戻す微細なバネがセットされています。無理な力が加わった場合や長期間使用した場合に、バネが破損する事があります。その際は、針先を交換して下さい。

交換用針先：  
「ビーズクチュールニードル替針」(別売品)

## ビーズクチュールニードルを上手に使うヒント

### Q：適した糸は？

A：25番刺しゅう糸3本取り程度までの太さで、強度があり、しなやかな糸なら使えます。スパンコールやビーズを刺す時は、ミシン糸50～60番程度の糸をおすすめします。(別売のクローバー「ビーズクチュール糸」もあります)  
チェーンステッチを刺す時には、25番刺しゅう糸3本取り、5番刺しゅう糸1本取り程度までの太さの糸をお使い下さい。

### Q：適さない糸は？

A：25番刺しゅう糸の場合、1本取りでは、糸の強度が足りず切れるおそれがあるので使用しないで下さい。また テグスなど腰の強い弾力性のある糸は、刺す時にカギからはずれやすいので使えません。

### Q：適した生地は？

A：最初は手の動きが見える、オーガージーなど透ける素材で練習することをおすすめします。目の詰まっていない柔らかい、薄手の生地(シーチング、薄手のデニム、ジャガード、ツイードなど)ならほとんどの生地に刺せます。  
※種類によって適さない場合があります。

### Q：適さない生地は？

A：目の詰まったかたい生地(ブロードや厚手のデニム、帆布など)に無理に刺すと針先を傷めるおそれがあります。また、Tシャツなどのニット地は、生地が切れるおそれがあります。

### Q：適さない生地や枠に張れない既製品に刺しゅうしたい時は？

A：オーガージーなどに刺しゅうしたものをアップリケするなどして下さい。刺しゅう後、ひとまわり大きく生地をカットし、生地端を折り返して縫い止めます。

### Q：使用する刺しゅう枠は？

A：両手を使う刺しゅうなので、枠を固定する必要があります。普通の刺しゅう枠をクランプやくけ台で机に固定して使うこともできますが、刺せるスペースが狭くなり、生地の裏面を容易に確認できません。別売のクローバー「ターンフープ(18cm)」は机に固定でき、手元で360度回転するのでビーズクチュールに最適です。他にスタンド式の刺しゅう枠があれば使用できます。

クローバーの「刺しゅう枠」と「机くけ台」の場合



枠とくけ台の間に布をあてます。

クローバー「ターンフープ(18cm)」



ビーズクチュールに最適です。

### Q：刺す時のポイントは？(裏面ラインステッチ **上手に刺すコツ**)を参照

- A：●ステッチしている時に、糸がはずれないようにするには・・ステッチの進行方向にベラの先が向くように方向を合わせて刺していくと、糸がはずれずに刺しゅうができます(裏面 **ポイント1**)。糸がたるまない程度に軽く引いておきます(裏面 **ポイント3**)。
- カギが生地に引っかかった時は・・作業を中断し、カギを生地からはずします。針先を十分に刺してベラを出し切ると引っかかりません(裏面 **ポイント2**)。
  - カギが前のステッチのループに引っかかった時は・・作業を中断し、カギをループからはずします。糸がたるまない程度に軽く引きながら刺すと引っかかりません(裏面 **ポイント3**)。

<使用上の注意> ・針先は尖っていますので、取扱いにご注意下さい。

<保管上の注意> ・保管の際は、ケースに入れてお子様の手の届かない所に保管下さい。  
・使用後は、針先を乾いた布で軽く拭き、湿度の高い所での保管はお避け下さい。(錆びの原因となります)

- ベラが生地に刺さった時は・・作業を中断し、丁寧にベラを生地からはずして、再度刺し直して下さい。無理に力を入れて、押し込んだり、引き抜いたりしないで下さい。破損の原因となります。

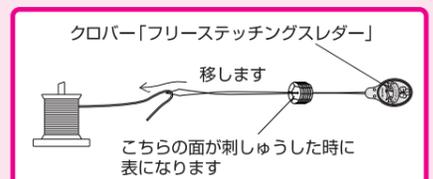
### Q：チェーンステッチをきれいに刺すには？

A：ステッチ幅よりも少し長めにループをふんわり引き出すようにして、糸を強く引きすぎないように注意します。糸を強く引きすぎたり、糸が太すぎると生地につっかかり、うまくステッチできない場合もあります。糸を替える、ステッチの幅を変えるなど試してみてください。

### Q：スパンコールやビーズ(バラの状態のもの)をたくさん刺したい時は？

A：スパンコールやビーズ(パーツ)は、ミシン糸などを通してから使います。針もしくは、別売のクローバー「フリーステッチングスレダー」を使って糸に通します。「フリーステッチングスレダー」は、先端が丸いので安全に作業でき、パーツを通す線の部分が長いのでたくさんのパーツを通す時に、とても便利です。

- ① 手のひらにスパンコールをのせ、向きを合わせて何枚か重ね、スレダーに通します。
- ② スレダーの先端に糸を通します。
- ③ スレダーに通っているスパンコールを糸に移します。

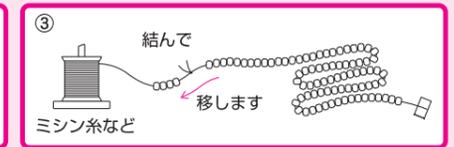
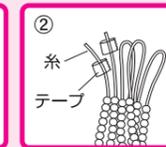
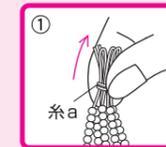


### Q：ビーズをたくさん刺したい時は？

A：糸通し済みのビーズを使うと便利です。ビーズに通してある糸は弱いので、ミシン糸などに移し替えてから刺しゅうをします。

#### <糸通しビーズを移し替える方法>

- ① 糸を束ねている糸aを外します。(糸aを軽くつまんでゆっくり抜き取る)
- ② ビーズが抜けないように糸の先にテープを貼り、丁寧に束をほぐします。(無理に糸を引かずに、束の糸を1本ずつほぐします)
- ③ ミシン糸などにビーズを移します。



※からまないようにほぐします。

### Q：スパンコールに裏表はありますか？

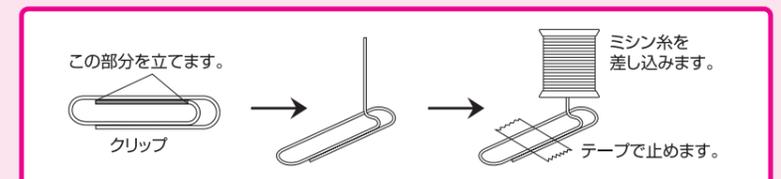
A：亀甲タイプは凹側が表になります。デザインによって凸側を表にして刺してもかまいません。

### Q：あると便利なものは？

A：クローバー「糸切リング」(別売品) 両手にニードルと糸を持ったまま、糸を切ることができますので、ハサミに持ち替える手間がなく作業がはかどります。



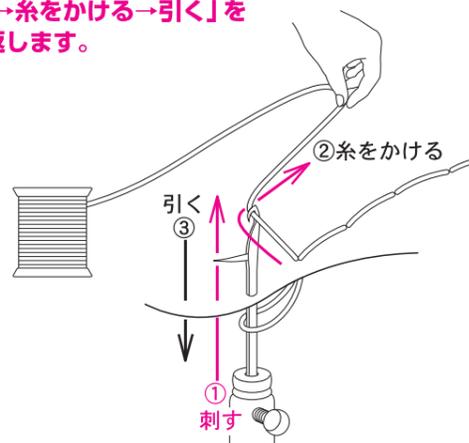
A：糸立て 糸が回り、"絡まる"のを防ぎます。クリップでも代用できます。



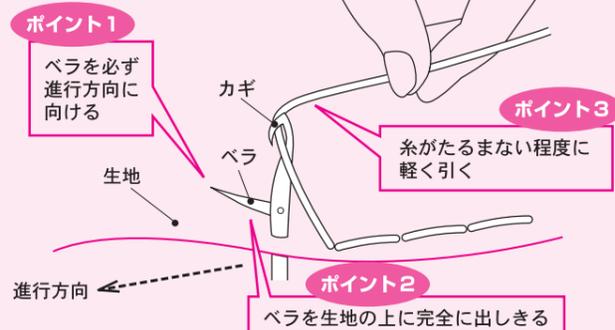
## <ステッチの方法>

### ラインステッチ 基本のステッチを刺してみよう!

「刺す→糸をかける→引く」を繰り返します。



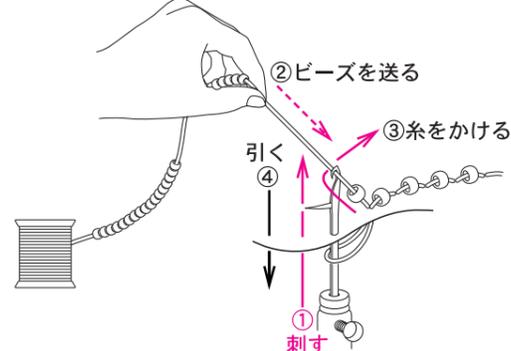
#### 上手に刺すコツ



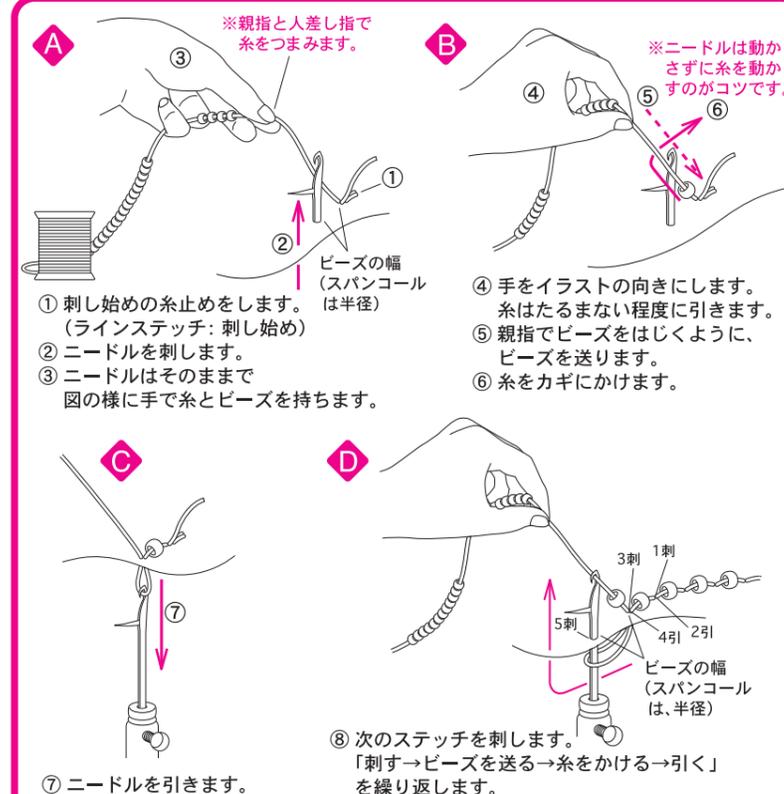
### ビーズステッチ ビーズやスパンコールを取付けてみましょう!

※ビーズを通した糸を用意します。

「刺す→ビーズを送る→糸をかける→引く」を繰り返します。

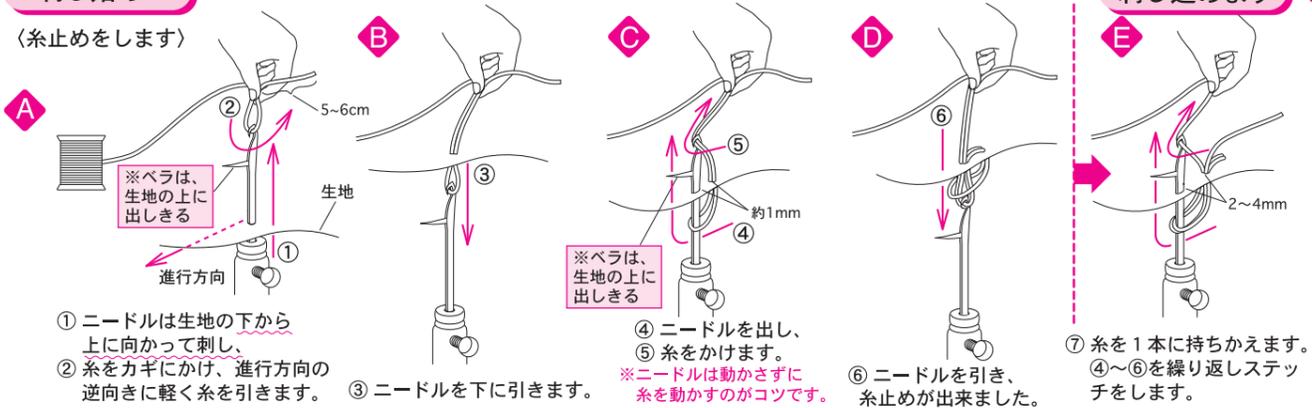


※ラインステッチにビーズを送る作業が加わります。最初は大きめのビーズ(丸大ビーズなど)で練習しましょう。スパンコールは、扱いやすい亀甲タイプで練習してから、フラットタイプにステップUPすると良いでしょう。

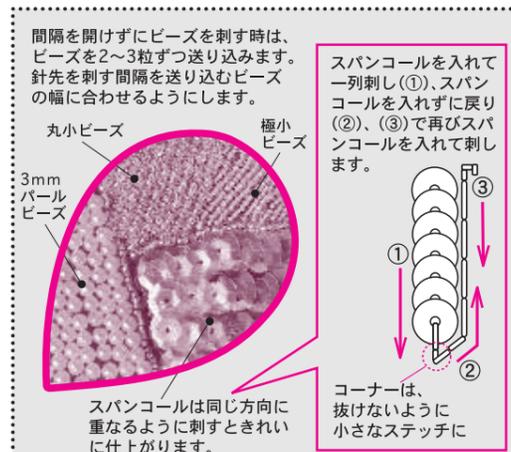


#### 刺し始め

(糸止めをします)

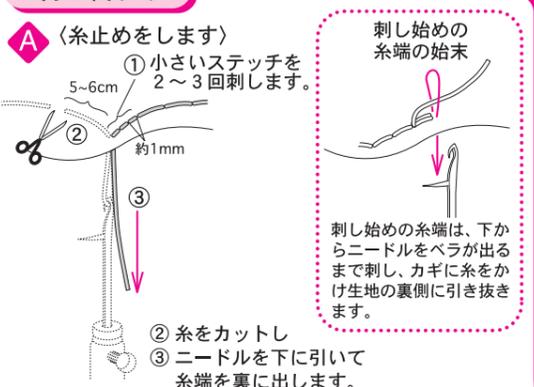


#### 刺し進めます



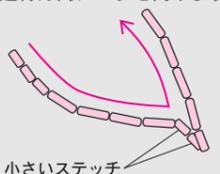
#### 刺し終わり

(糸止めをします)

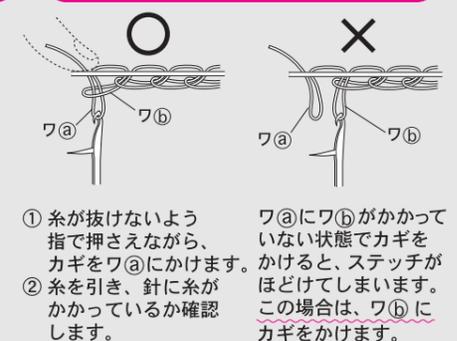


#### 方向を変える時は

※進行方向にベラを向けます。

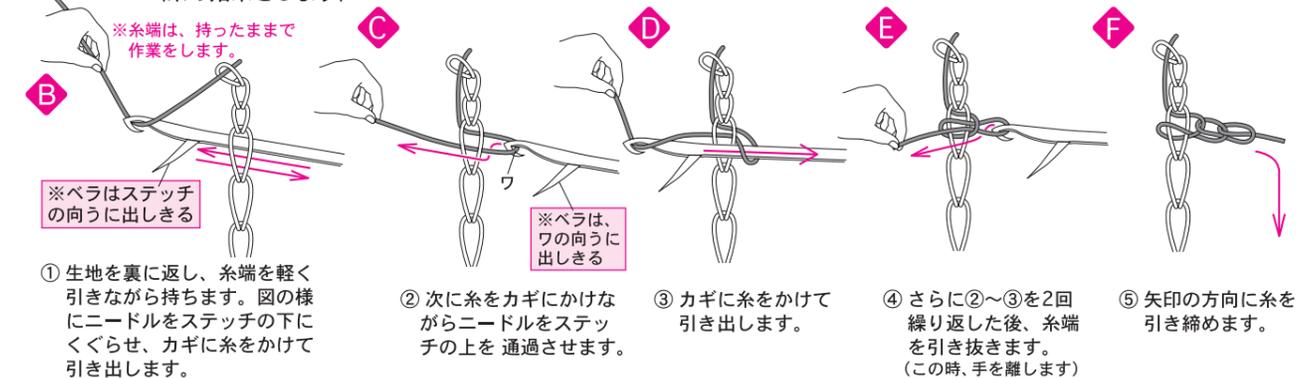


#### 途中で糸がニードルから外れたら



#### B以降は、生地裏側で作業します

(糸の始末をします)



### チェーンステッチ チェーンステッチを刺してみよう!

ニードルは生地の上から下に刺します。

※ラインステッチの裏面がチェーンステッチになります。(チェーンステッチの作品をつくるには、生地裏面に図案を(逆に)写し、ラインステッチで刺す方法もあります。)

